事件が起こらないよう今後の対策を伺います。

A **総務部長**　山武市不当要求行為対策要綱に基づいて、不当要求行為等対策委員会を開催し対応を協議しました。毅然とした態度で組織で対応しようと、今後の予防措置として、行政対象暴力対応研修会の開催など、行政暴力対応マニュアルの活用も含め、今後の対応について確認しました。

Q **副市長は山武市に就任されて仕事面でどの様に感じていますか。**

A **副市長**　市長の総括的な補佐として、山武市の総合計画を着実に実施していきたいと思っています。

Q **山武市の印象を伺います。**

A **副市長**　市民団体の方やＮＰＯの方にお会いした時に、非常に積極的に参加下さっています。行政として一生懸命応援していかなければと感じました。また、身の丈に合った財政にするために施策枠予算で進めている事は先進的な行政をしていると感じています。

Q **山武市の長所と短所を伺います。**

A **副市長**　長所は豊かな自然があること、皆さんが元気だということ、市民の方々の協働精神や財政に取り組む姿勢だと思っています。

短所は、にぎわいのある中心的な部分がないという印象があります。そのためには成東駅の南口の道路を整備し、駅前広場を整備するなど少しずつ中心的なにぎわいを作ってマイナス面を解消していければと思っています。

個人質問

越川　哲　議員

・成東駅の周辺整備について

Q **成東駅は総武本線と東金線が乗り入れ、1日約6千人の乗降客があり、市の玄関とも言えます。成東駅の周辺を整備するにあたり、整備方針と今後の進め方についてはどのようになるのか。**

A **市長**　市の財政的な制約からも、成東駅の南北を同時に整備することは困難と判断し、まずは成東駅南側のアクセスの改善と、駅周辺の利便性の向上を図っていくとの方針を取りまとめたところです。

今後は、国の交付金や合併特例債を活用し、実現可能な整備計画をしっかりと策定してまいりたいと思います。

Q **成東駅南側の整備計画については、どのような内容となるのか。また、いつまでに計画を策定するのか。**

A **都市建設部長**　駅前広場の拡幅、そして駅前広場から国道１２６号線に直結する駅前道路（駅南口線）の整備を検討しています。

計画策定の時期につきましては、来年度中に整備計画を作成し、国の承認が得られるよう、迅速に取り組んでまいります。

Q **駅前は市の顔です。バリアフリーは当然として、景観の面で言えば、電線類の地中化ということは考えているのか。**

A **都市整備課長**　電線類の地中化につきましては、東京電力やＮＴＴなどの協力を得ることが前提となりますが、貴重な御提案ですので、駅前広場や駅前道路の整備の課題として、検討していきたいと思います。

Q **駅前広場の拡幅は市の事業となりますが、いつごろ着手するのか。**

A **都市整備課長**　合併特例期間が平成27年までとなっていますので、平成24年から平成27年までの４年の計画とする方向で検討しております。

Q **駅前道路については、県の事業となりますが、県が事業をおこなう確実性は、どの程度あるのか。**

A **都市整備課長**　駅前道路につきましては、県の事業として整備されるよう、この４月から、県と事務レベルで事前の協議をおこなってきました。

９月に市長みずからが県庁に出向き、県土整備部長をはじめ、県土整備部の幹部に要請をおこないました。その際、市としてしっかりと取り組んでもらいたいという意見が出されるとともに、市の要請に沿って、前向きに対応したいとの明確な回答を得たところでございます。

Q **市長が県庁に行って要望し、県から前向きに対応したいとの回答を得たということですが、これは行政の世界では、おおむね確実な線で進んでいるというように受け止められます。そうなると、地元に対しても早く計画を示してほしいと思います。**

駅前道路の幅員は何メートルになると考えているのか。また、いつ地元に道路の区域が示されるのか。

A **都市整備課長**　駅前道路の幅員につきましては、市の案といたしまして、道路構造令に基づき18メートルで検討しております。幅員構成は、車道が３メートル、停車帯が１・５メートル、歩行者帯が４・５メートルで、これが両側に配置されることとなります。

地元の方に対しましては、道路の区域について、できれば年度内に案の図面をお示しできるよう、作業を進めていきたいと考えております。

成東駅前あじょすっ会